

中国語における  
敬語体系と使用習慣に関する研究

—日本語の敬語体系の枠組みを参考にして—  
(要旨)

広島大学大学院文学研究科  
博士課程後期人文学専攻  
学生番号：D142422  
氏名：吳天一

本論文は、従来の日本語の敬語と敬語表現に関する研究成果を踏まえ、敬語の体系または敬語の成立に欠かせない要素を解明した上で、中国語話者に対して敬語の使用習慣を調査し、中国語における敬語の体系や敬語表現がいかに成立するのかを明らかにしたものである。論文は以下のような 8 つの章から構成される。

- 第 1 章 序章
- 第 2 章 先行研究の概観
- 第 3 章 中国語の敬語の発展
- 第 4 章 中国語敬語の特性
- 第 5 章 中国語の使用意識及び使用実態における考察
- 第 6 章 日本語敬語の本質及び現在に至るまでの変化
- 第 7 章 日本語の敬語要素と一部の概念を導入した現代中国語における敬語の全体像
- 第 8 章 結論

第 1 章では、中国語の敬語はかつて存在したが、現在ではそれが明確ではない。敬語、敬語表現がどのようにコミュニケーションを円滑化する機能として働いているのか、その発展のプロセスは現在でも不明なままという背景を確認した上で、本研究の位置づけを述べる。

第 2 章では、今まで日本語の敬語に関する研究は基本的に文法的意味と文法的表記に注目しているが、これに対して中国語の敬語に関する研究は概ね「訓詁学の理論」と「ポライトネス理論の応用」という二つに分けられることを明らかにし、その上で日中両言語における敬語の理論を概観し、敬語の体系に関わる理論及び定義について述べた後、本研究のアンケート調査における先行研究について述べる。

第 3 章では、敬語の歴史的発展と理論的発展の二つの側面から、現代中国語の敬語に至るまでの発展アプローチを解明した。すなわち、現代中国語において、敬語は現時点では復興・混乱期から抜け出していると言えない。旧来の基本的な理論、特に「貶己尊人の規則」「呼称の規則」「文雅の規則」「合意・共感の規則」「言行一致の規則」の五つの原則を見ることができ、中国語の敬語をまとめ、体系化するためには、二つの側面、すなわち敬語に関する理論の整理と実際の使用状況の調査を行うことが欠かせない課題であることを述べる。

第4章では、まず中国語の敬語表現で表現される人間関係を整理し、現代社会において実際に敬語を使用する際に、主に相手や話題の人物の年齢、長幼の序、社会的地位、文化程度などの要素を考えながら適切な敬語が選択されることを明らかにする。一般的に敬語は話し手と聞き手の間柄が疎遠であり、あるいは聞き手や話題の人物について、明らかに社会的地位が高く、その人との利益関係がある場合に使用することが明らかになった。その上で、語用論と意味論の二つの側面から中国語の敬語を分析し、中国語の敬語を体系化するために、直示的性質であるか否かと標識の有無を検討した。その結果、現代中国語の敬語は直示的性質を持ち、有標性であることが明らかになった。さらに中国語の敬語をパラダイグマティック関係とシンタグマティック関係から分析し、「敬詞」と「謙詞」の境目を明確にした。

第5章では、実際に行ったアンケート調査を分析した結果、被調査者の性別、学歴、職業により傾向は異なるものの、中国語にも敬意表現が存在することが明らかになった。通常、中国語話者の敬意表現に対する認識度は高くはないが、教育を受けることで敬意表現が使えるようになり、より高い教育を受けているほど、敬意表現に対する認識度も高くなる。敬意表現を定義し分類した結果、中国語話者は「中国語の中に敬意表現がある」という認識を持っていることが明らかになった。敬意表現は、年齢、学歴、職業、性別に関与しており、コミュニケーションが頻繁におこなわれる場合ほど、敬意表現を求める傾向が見られる。ただし、同一時間に複数の人間とコミュニケーションをとる場合、コミュニケーションの効率を向上させるために、敬意表現を避ける傾向が見られ、敬意表現に対する認識の平均値も低くなることも分かった。中国語話者は婉曲語の使用頻度が高いことも明らかになった。

第6章では、日本語の敬語に関する数多くの研究の中から、とりわけ敬語の変化を示す研究を取り上げ、敬語の本質がどのように変化し、その変化を引き起こす原因を分析してきた。日本語の敬語は大衆化の段階を経たにもかかわらず、易しくなると誤用が生じやすいという敬語変化の流れを乗り越え、現在でも美しい日本語の特徴の一つとして輝いている。それだけではなく、新しく策定された言語政策により、従来の固定的な捉え方ではなく、自分と他人の人間関係について尊重の気持ちを持ちながら敬語を使用することになる。この視点を借用した中国語の敬語は、今までの「敬語の乱れ」の現象を收拾させることが期待できることを明らかにした。

第7章では、中国語の敬語を体系化するという主要課題を紹介

した。本研究では、中国語敬語の標識たる敬語詞を「尊敬辞」「謙讓辞」「美化辞」に分類し、中国語の敬語を再検討した。会話の中の人間関係は、標識の定義によって分析することができる。そして中国語の敬語は敬意表現たる「礼語」の下位項目であり、それぞれの概念の従属関係が明らかになる。「尊敬辞」「謙讓辞」「美化辞」は「美化的礼語」の下位分類であり、話者と聴者あるいは話題の人物たる第三者の人間関係を示す特定の言語表現であると定めた。敬語の文法構造としては、

- 1) 標識単語の使用だけではなく、敬意呼称語と併用すること。
- 2) 授受関係を反映する待遇表現詞を使用すること。
- 3) 呼称詞を使用し、とりわけ言葉を選択し、本来の意味と比較して上品な言葉を使用すると、敬語標識語を使用しなくても美化語として扱われる、

という三点の特徴があり、これによって敬語の文法は成立し、尊敬語は「表敬的呼称＋尊敬辞」、謙讓語は「表謙的呼称＋謙讓辞」、美化語は「呼称語（省略できる）＋美化辞」或いは「言語選択行為」と定義することで、中国語の敬語に関する文法がまとめられる。

第8章では、本研究の議論をまとめ、今後解決すべき課題に関して現時点での展望を述べる。